



病理診断と医学研究の両立による医療・教育への貢献

医学部 教授 新野 大介
講師 大原 浩貴

病態病理学教室（附属病院病理診断科）では、患者さんから提供された組織や細胞の観察に基づいて、病変の有無や状態を評価する病理診断を日々行っています。病理診断は「最終診断」または「確定診断」とも呼ばれ、患者さんの治療方針の決定にも関わる重要な医療業務です。病理医は患者さんを直接診察することはありませんが、病理診断を通じて人々の健康の維持・回復に貢献しています。一方、島根県内の病理医は慢性的に不足しています。医学部生や研修医に病理医の魅力を伝え、将来の病理業務を担う病理医を育成するための活動にも積極的に取り組んでいます。病理業務のみならず研究にも力を入れており、リンパ腫の病理診断ならびに臨床病理学的研究を推進しています。また基礎研究では、高血圧を自然発症するモデル動物を用いた脳卒中などの高血圧性疾患に対する予防・治療法創出を目指した研究に取り組んでいます。高齢者に特有である高血圧性の血管障害を制御する手段の開発を通じて、健康長寿の実現に貢献したいと考えています。